

自治会に関する アンケート調査 結果報告書

平成29年 11月

白井市自治連合会

白井市

自治会アンケートの実施概要

1. 目的

市内の各自治会の活動状況や課題などの現状把握と、取り組みの好事例を情報収集し、自治会活動の課題解決に向けた検討資料を得る。

2. 調査対象 市内全自治会 96自治会の自治会長

3. 調査期間 平成29年10月4日（水）～10月25日（水）

4. 調査方法 平成29年度自治会長宅へ、調査票及び返信用封筒を郵送配付

5. 主な調査項目(詳細は次ページ参照)

- | | |
|-------------------|---------------|
| (1) 自治会長に関すること | (2) 自治会の収支 |
| (3) 自治会活動の取り組み | (4) 自治会活動の課題 |
| (5) 自治会加入の取り組み | (6) 役員のなり手の確保 |
| (7) 他団体・組織との協力・連携 | (8) 市からの必要な支援 |
| (9) その他の意見、提案 | |

6. 回収方法 郵送回収（市役所へ直接提出も可）

10月18日（水）に未提出の自治会に文書を発送

7. 回収結果 96自治会中92自治会提出 回収率 95.8%

（うち無記名回答2自治会）

自治会アンケートの調査結果

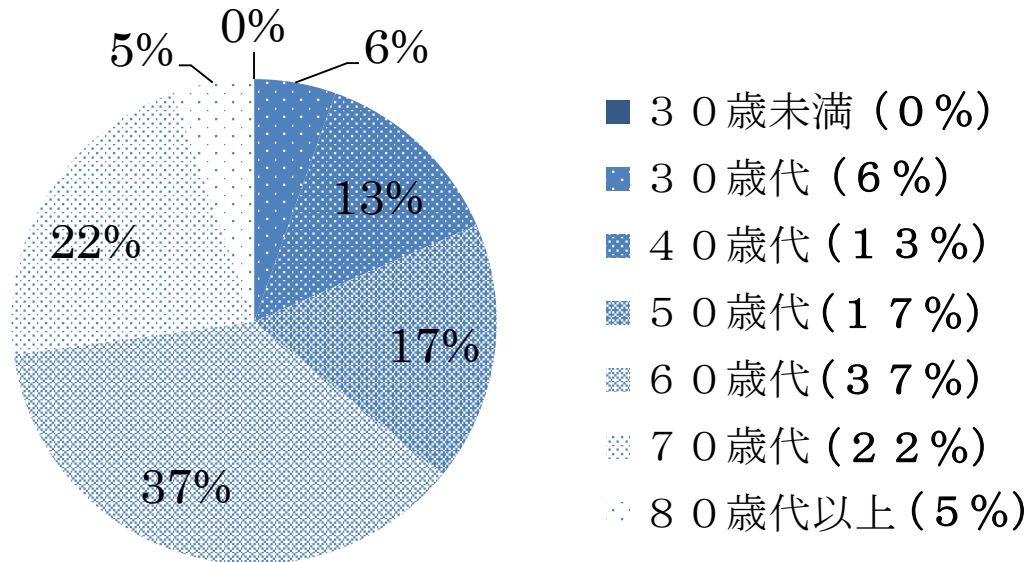
アンケート調査の質問項目

調査項目	小項目	回答形式	ページ
1. 自治会長に関すること	問 1. 年代	択一	P.3
	問 2. 職業への従事	択一	P.3
	問 3. 在職年数	択一	P.4
	問 4. 任期	択一	P.4
	問 5. 選出方法	択一	P.5
2. 自治会の収支	問 6. 自治会費	数量回答	P.6
	問 7. 年間活動費	数量回答	P.6
	問 8. 主な収入源 (自由回答有)	複数選択	P.7
	問 9. 主な支出経費	複数選択	P.9
3. 自治会活動の取り組み	問 10. 取り組んでいる活動	複数選択	P.11
	問 11. 会員の参加状況	択一	P.12
4. 自治会活動の課題	問 12. 活動の課題	複数選択	P.13
5. 自治会加入の取り組み	問 13. 加入率の推移	択一	P.14
	問 14. 加入しない理由	複数選択	P.14
	問 15. 加入者を増やすための取り組み (自由回答有)	複数選択	P.15
	問 15-1 取り組みを行っていない理由	複数選択	P.17
	問 16 退会者を減らすための取り組み (自由回答有)	複数選択	P.18
6. 役員のなり手の確保	問 17 役員のなり手を確保するための取り組み (自由回答有)	複数選択	P.19
7. 他団体・組織との協力・連携	問 18 他団体・組織との協力・連携 (自由回答有)	複数選択	P.21
8. 市からの必要な支援	問 19. 市からの必要な支援	複数選択	P.23
9. その他の意見、提案	問 20. その他の意見、提案	自由回答	P.24

調査項目1 自治会長に関すること

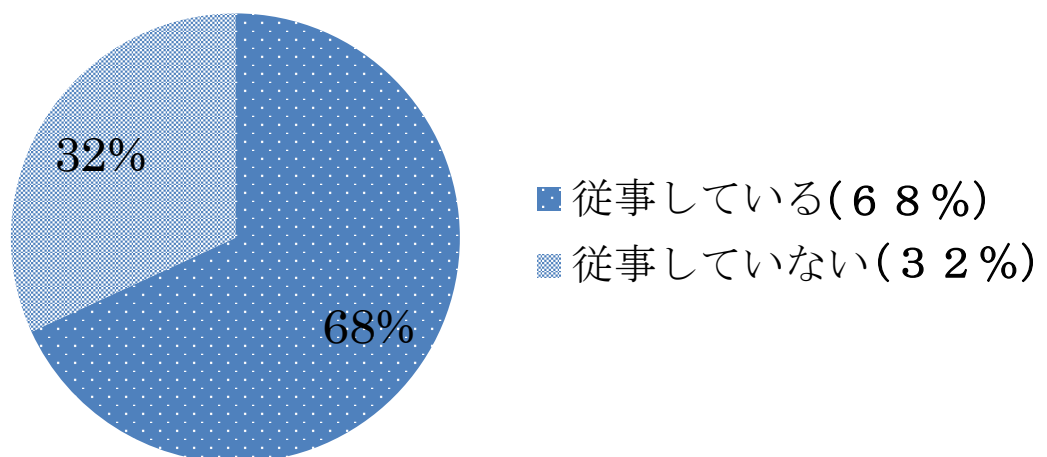
問1. 年代

あなたの年齢について教えてください (択一)



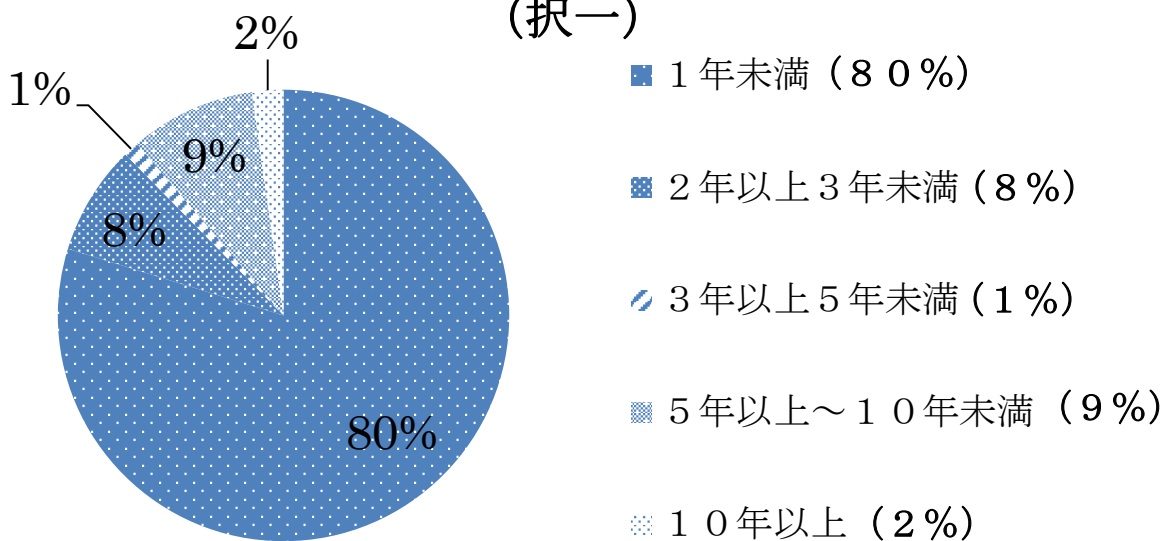
問2. 職業への従事

現在あなたは何らかの職業に従事していますか。
(択一)

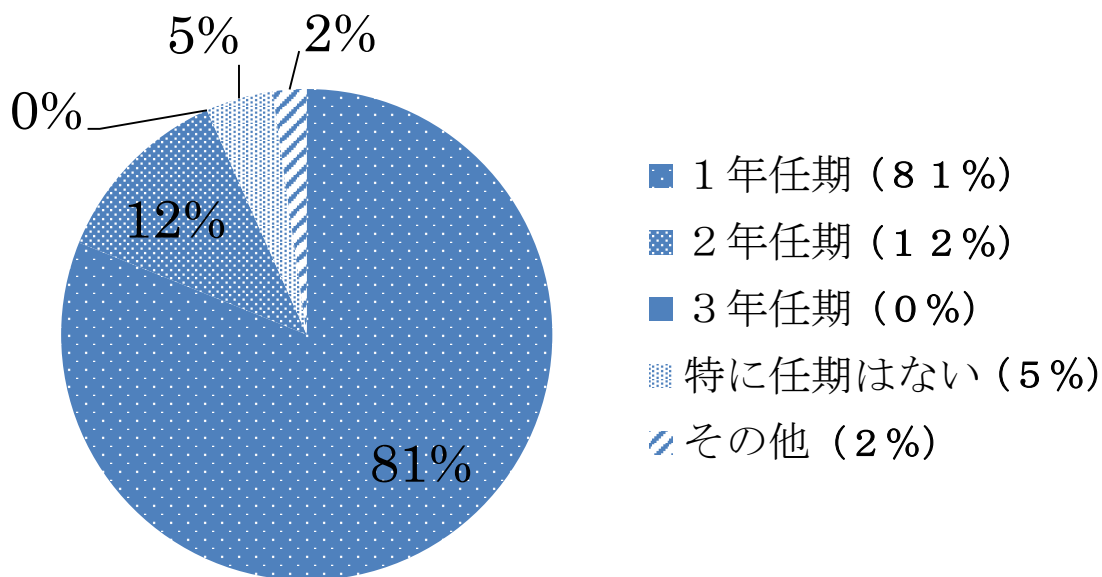


・自治会長については60歳代が最も多く、また職業へ従事している人の割合が高かった。

問3. 在職年数
自治会長に就任し通算何年になりますか。
(択一)



問4. 任期
自治会長の任期は何年ですか。(択一)



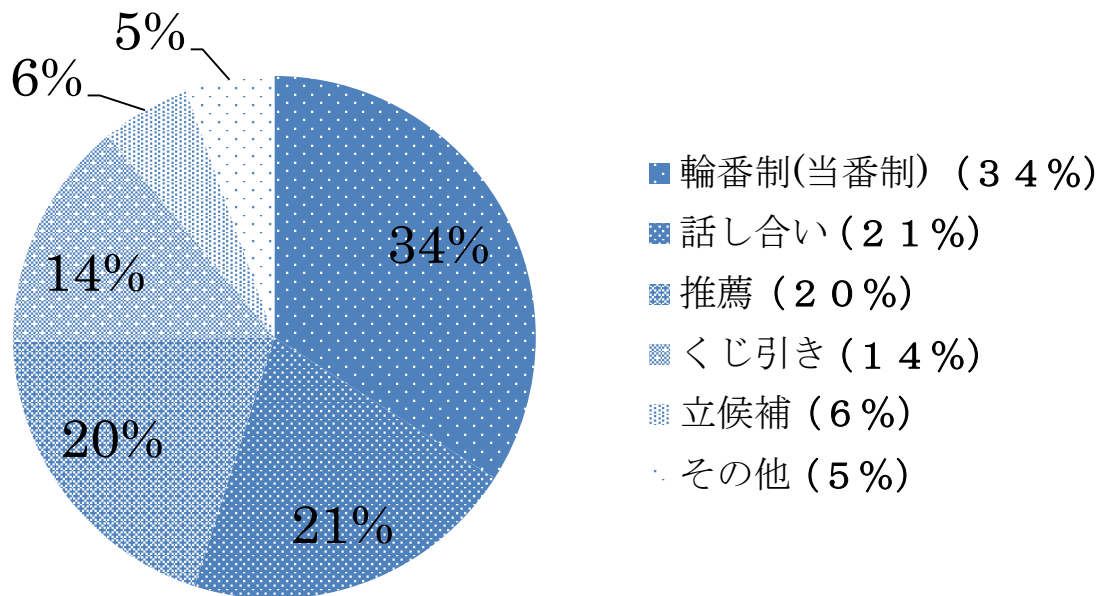
その他の回答内容

・ 1年で再任員は5年迄可 ・ 4年 ・ 5年以内

・ 自治会長の在職年数は1年以内、任期は1年以内がそれぞれ大多数を占めていた。

問5. 選出方法

自治会長はどのように選出していますか。(択一)



その他の回答内容

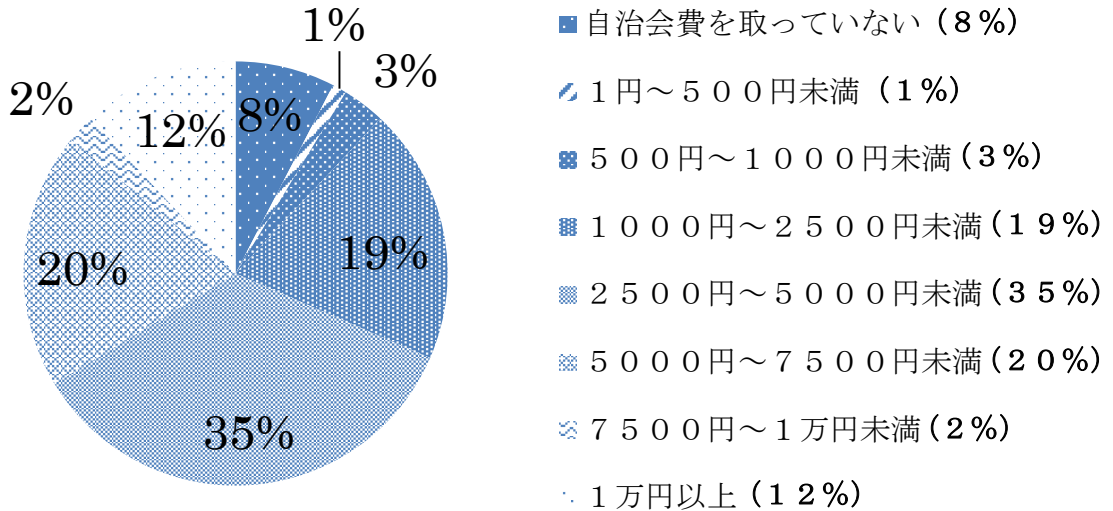
- ・話し合いで決まらない場合くじ引きになる
- ・班内の輪番制で班内より選出
- ・立候補後該当者なしで新班長による話し合い、互選
- ・班長から選出する
- ・例年はいくじ引きまたは話し合い、今年度はそれで決定できず、仕方なく立候補

・自治会長の選出方法は「輪番制(当番制)」、「話し合い」、「推薦」の順が多かった。

調査項目2 自治会の収支

問6. 自治会費

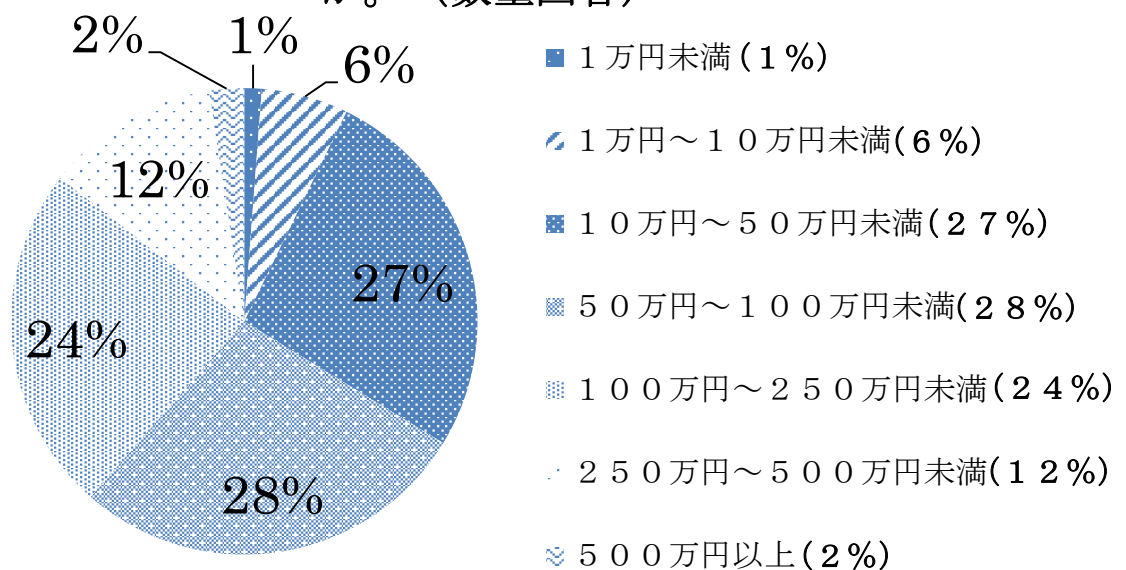
1世帯当たりの年間の自治会費はいくらですか。
(数量回答)



・年間の自治会費については「2500円～5000円未満」、「5000円～7500円未満」、「1000円～2500円未満」の順で多かった。

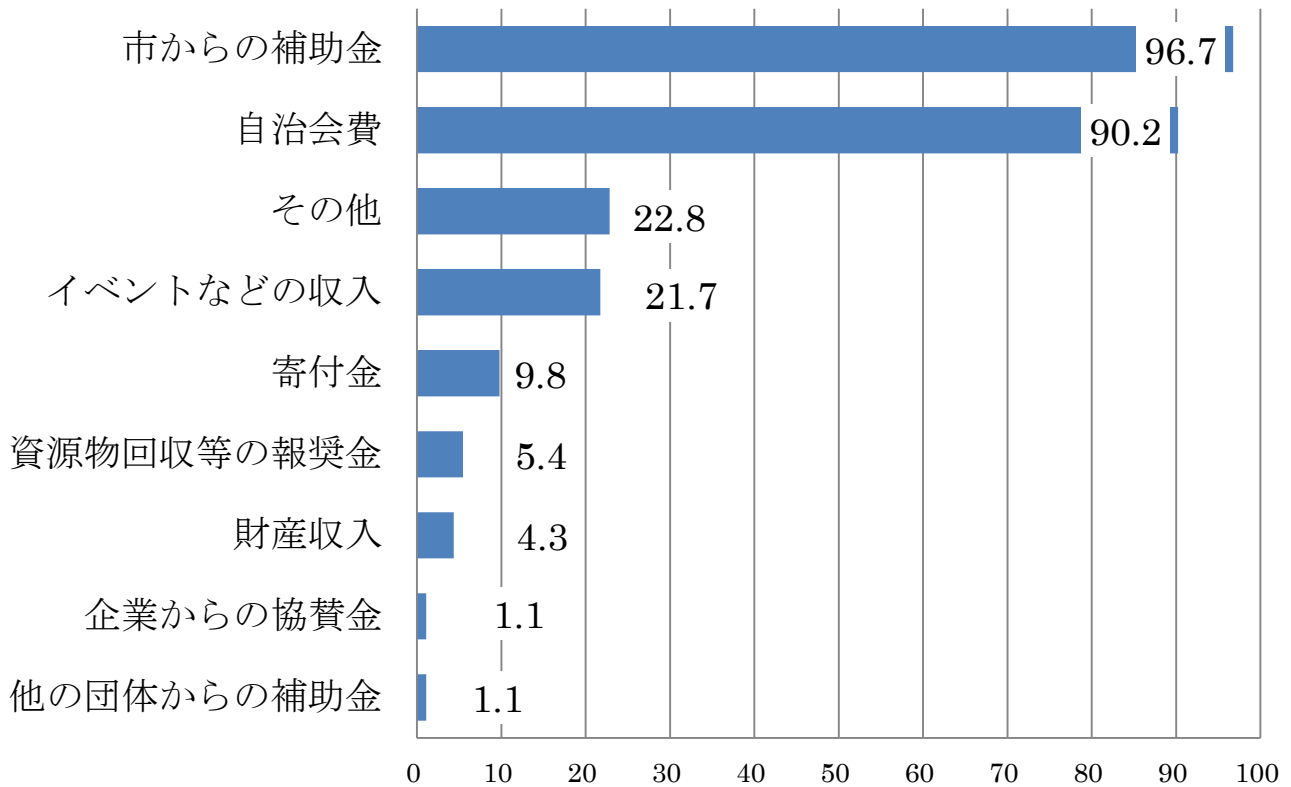
問7. 年間活動費

平成29年度の自治会の年間活動費はいくらですか。
(数量回答)



・自治会の年間活動費については「50万円～100万円未満」、「10万円～50万円未満」、「100万円から250万円未満」の順で多かった。

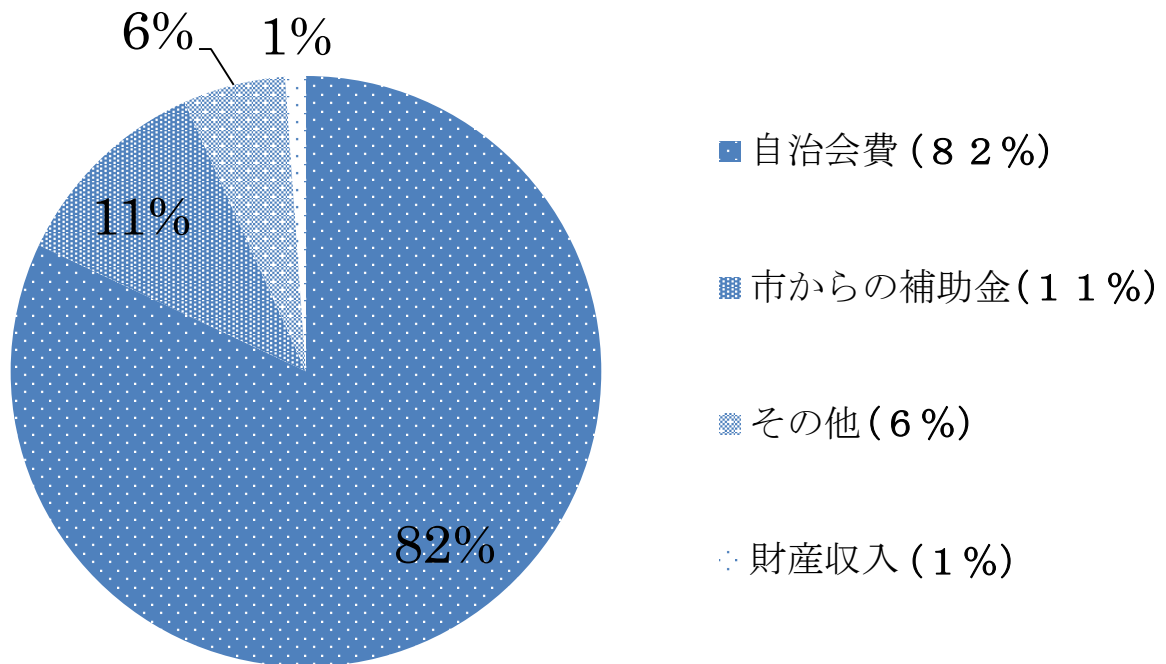
問 8. 主な収入源
自治会の主な収入源について多いものから 3 つ選んで
ください。(複数選択)



その他の回答内容

- ・前年度繰越金 (2件) ・駐車場料金 (2件)
- ・集会所利用収入 (書道教室・麻雀クラブ・ゴルフクラブ・卓球クラブ) (2件)
- ・都内企業より管理を委託された土地の管理運営 ・UR 緊急連絡員事務委託費
- ・団地管理組合で負担 ・市交付金 ・不足分募金 ・公園清掃補助金 ・預金利息
- ・募金 ・行事への参加費 ・管理組合からコミュニティ活動として
- ・管理組合からの補助

自治会の主な収入源で最も多いもの（択一）



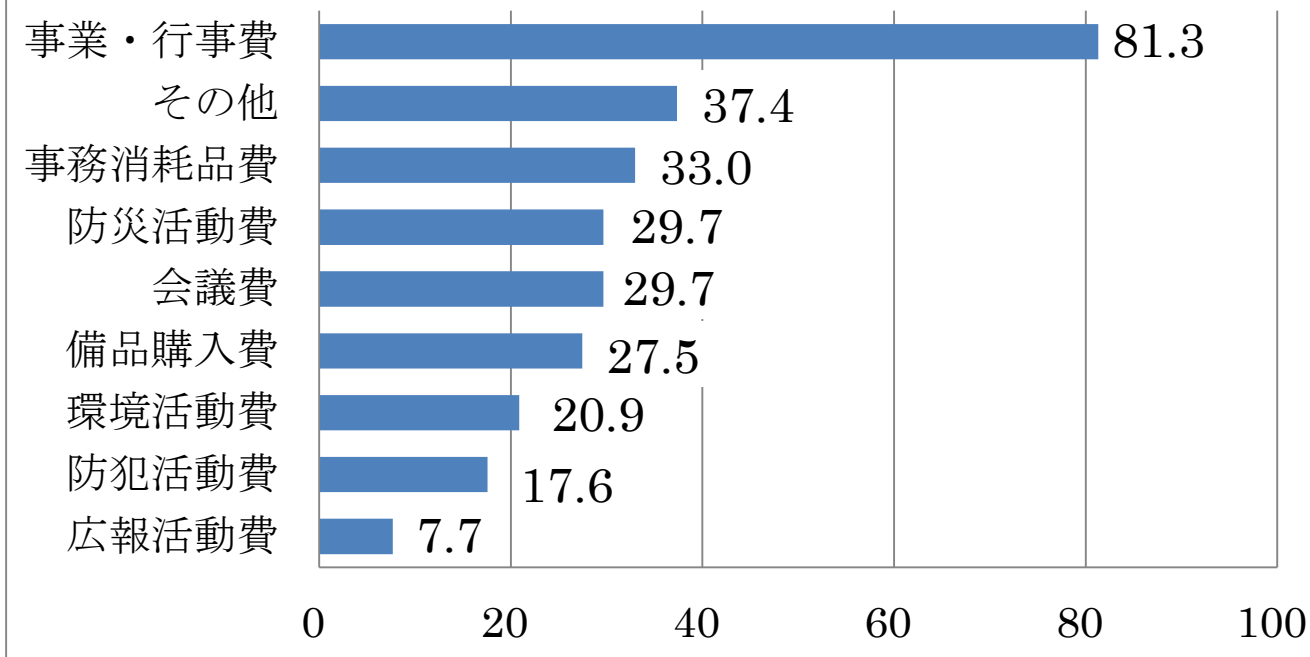
・自治会の主な収入源は「市からの補助金」や「自治会費」が多数を占め、最も多い収入源となっているのは「自治会費」が多数を占めていた。

自治会費、市の補助金以外で収入源となる効果的な取り組み

- ・資源物回収等による奨励金。（6件）
- ・夏祭りでのイベント（3件）
- ・賛助会員費
- ・駐車場利用から補填する。
- ・盆踊り、みこし祭り、節分祭の開催時のご祝儀。
- ・世帯の自治会費を上げる
- ・自治会加入率を高めて会費の増収を図る
- ・子どもみこし、集会所使用料
- ・たたみ、ふすまなど共同購入事業を活発化し手数料増

問9. 主な支出経費

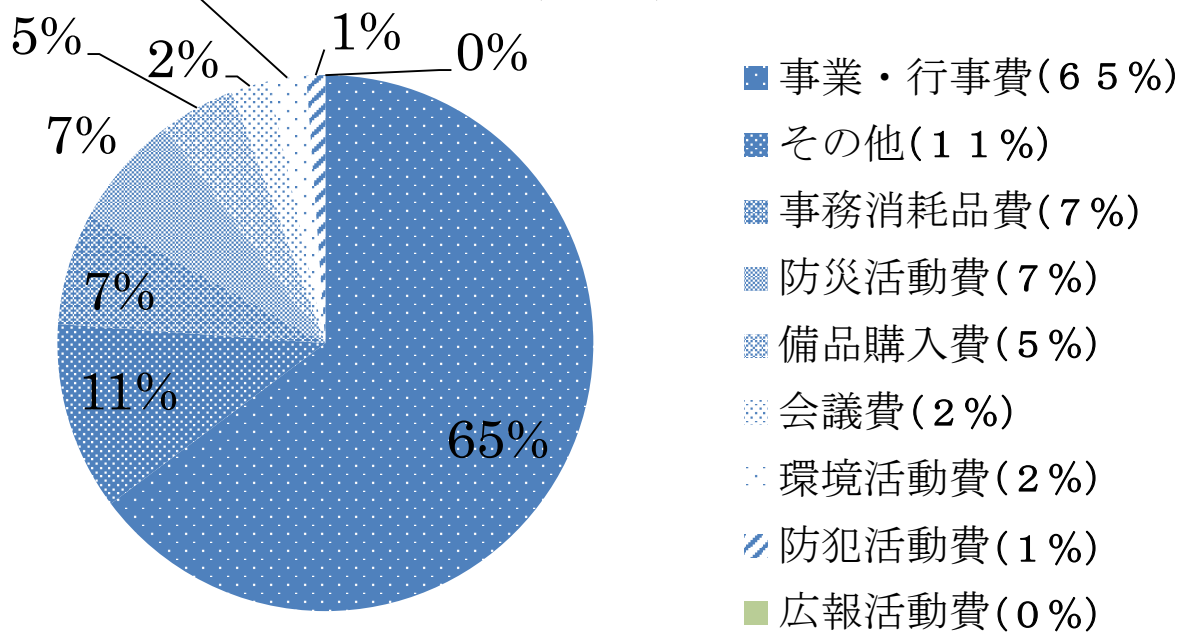
自治会の主な支出経費について、多いものから順に3つ選んでください。(複数選択)



その他の回答内容

- ・集会所維持 (7件) ・夏祭り (4件) ・消防団費、役員手当 (2件) ・保険 (2件)
- ・募金経費 (2件) ・防犯灯電気料 (2件) ・ガス、電気、水道、下水の共益費 (2件)
- ・ごみ集積所の借地代 ・寄付金、会長報酬 ・借用地の環境整備費 ・福祉協議会会費
- ・共同施設管理費 (火災保険・自賠責保険・備品・維持管理・修繕費等)
- ・集会所借地料 ・慶弔費 ・修繕積立金、防災会助成金 ・小学校区支部関連行事
- ・使用料 (会議会場費、事務所手数料) ・神社の維持管理、修繕費
- ・寄付金 ・懇親会費、ふれあいデー費 ・サークル活動 (月1回のあっとほーむ)
- ・さくらんぼの会費用 ・地域協力金、自治会運営費

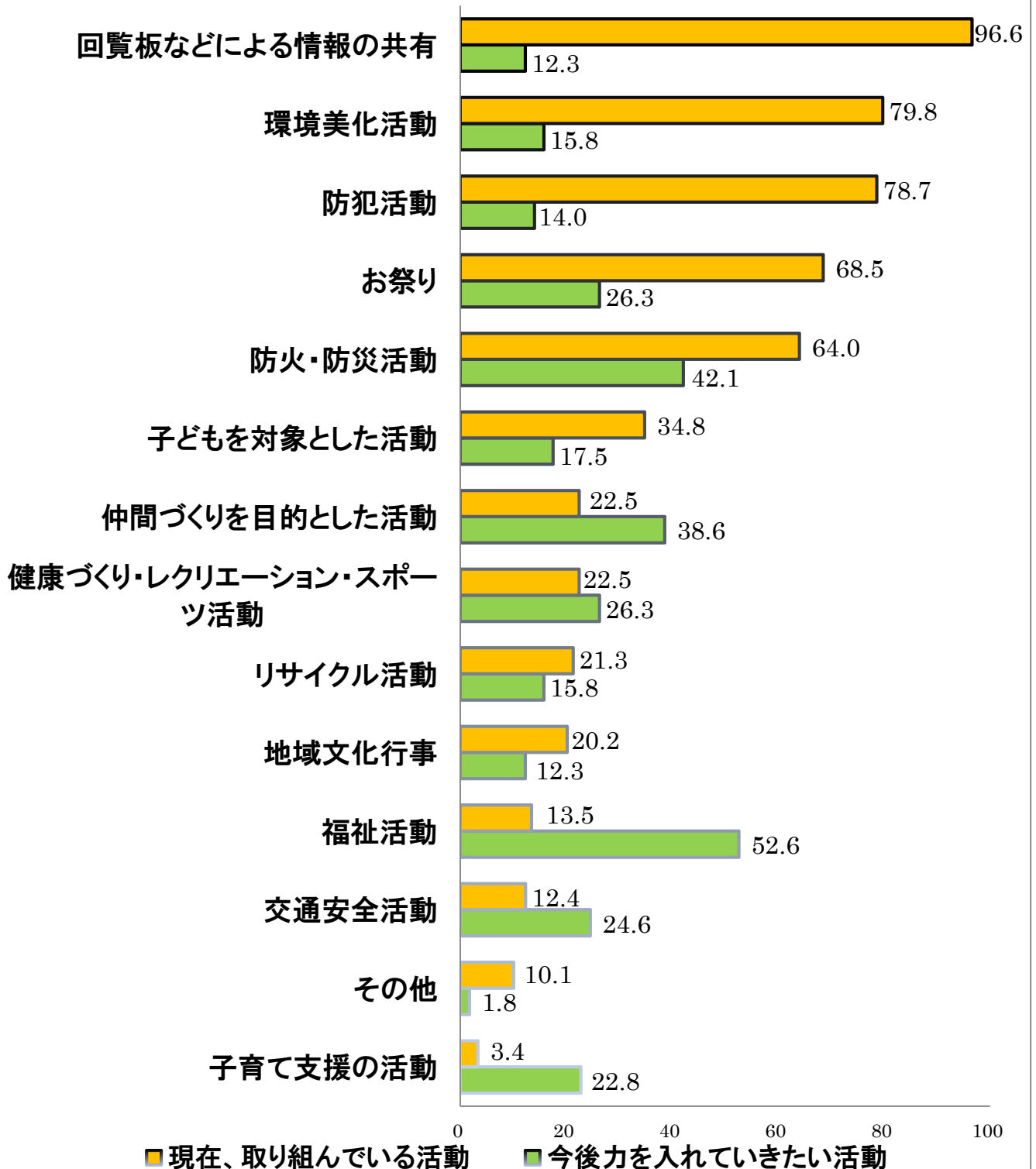
自治会等の主な支出経費で最も多いもの (択一)



- 自治会等の主な支出経費は「事業・行事費」が多数を占め、「その他」（集会維持費や夏祭りなど）、「事務消耗品費」の順で多かった。最も多い支出経費は「事業・行事費」であった。

調査項目3 自治会活動の取り組み

現在自治会として取り組んでいる活動、 今後力を入れていきたい活動（複数選択）



その他（現在取り組んでいる活動）

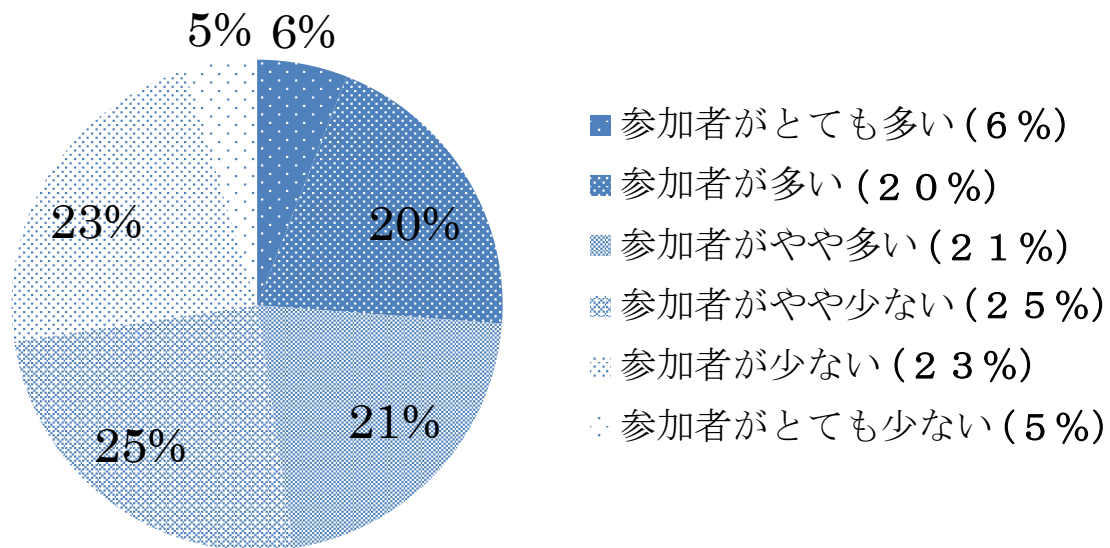
- ・餅つき大会（2会） ・カラオケ（2件） ・新年会（会員相互の親睦）（2件）
- ・講演会、落語会 ・夏休中のラジオ体操の会 ・バーベキュー大会
- ・他自治会と協力した催事など ゴミステーションのパトロール（班長のみ）

その他（今後力を入れていきたい活動）

他自治会と協力した催事など

- ・自治会が現在取り組んでいる活動は「回覧板などによる情報の共有」、「環境美化活動」「防犯活動」、「お祭り」、「防火・防犯活動」の順が多かった。
- ・今後力を入れたい活動は「福祉活動」、「防火・防災活動」、「仲間づくりを目的とした活動」、「お祭り」、「健康づくり・レクリエーション・スポーツ活動」、「交通安全活動」の順が多かった。

問 1 1. 会員の参加状況
自治会活動を全般的にみて、会員の参加状況を
教えてください。（択一）

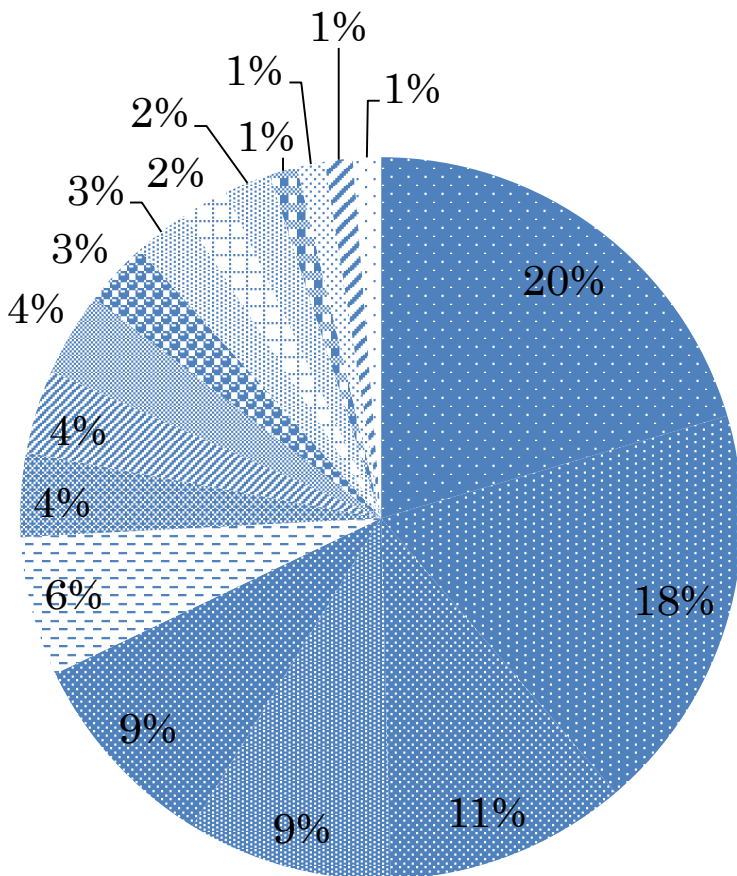


- ・自治会で取り組んでいる活動の会員の参加状況は「参加状況が多い」と「参加状況が少ない」が半数程度であった。

調査項目4 自治会活動の課題

問12. 活動の課題

自治会活動を行っていくうえで課題（悩みや困りごと）となっているのはどのようなことですか。（複数選択）



- 役員のなり手が少ない（20%）
- 役員の負担が大きい（18%）
- 役員が高齢化し活動に支障をきたしている（11%）
- 住民の自治活動への関心が低い（9%）
- 特定の人しか活動に参加しない（9%）
- 行事や活動などの参加者が少ない（6%）
- 活動拠点となる施設（場所）がない（4%）
- 活動がマンネリ化している（4%）
- 特に困っていることはない（4%）
- 退会する人が増えている（3%）
- 自治会規模が小さく活動が難しい（3%）
- 転入者で加入する人が少ない（2%）
- 行政からの依頼事項が多い（2%）
- 活動費が不足している（1%）
- 自治会内の意見の調整が難しい（1%）
- 外国人が増えている（1%）
- その他（1%）

その他の回答内容

- ・自治会員から会長への相談事が多い。行政各部署への相談10数件～20件。今年は自治連支部活動負担大。・自治会長の負担が多すぎる
- ・まだできたばかりの自治会で良く分からない

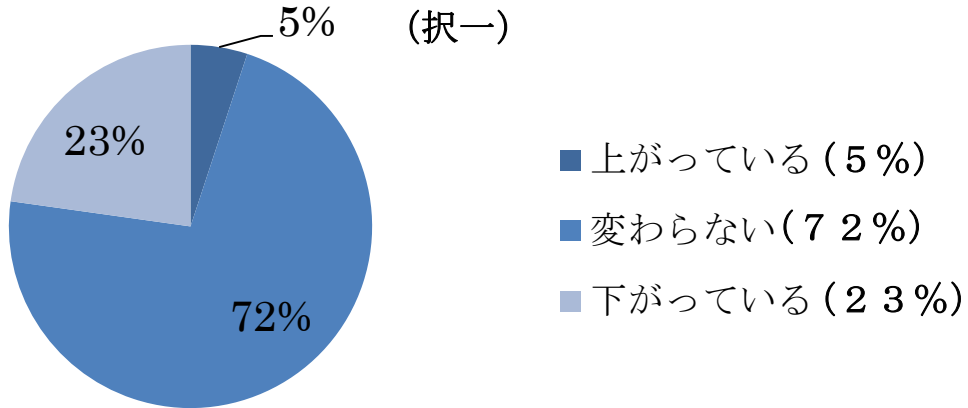
・自治会活動の課題は「役員のなり手が少ない」、「役員の負担が大きい」、「役員が高齢化し活動に支障をきたしている」の順が多かった。

調査項目5 自治会加入の取り組み

問13. 加入率の推移

ここ数年の自治会の加入率の推移について教えてください。

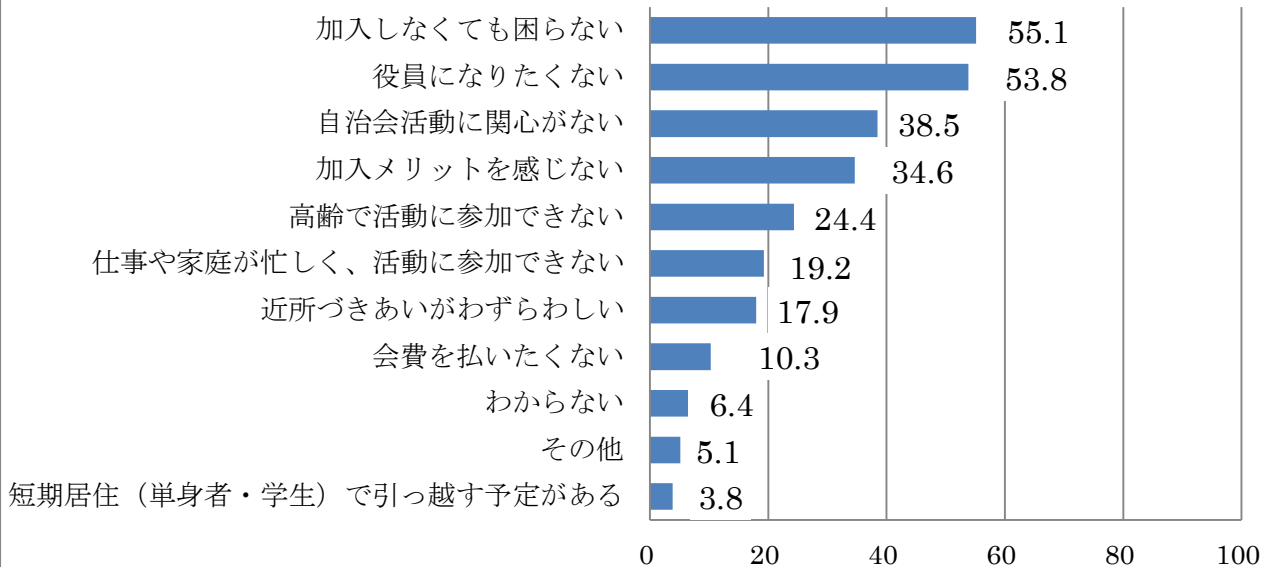
5% (択一)



- ・自治会の加入率の推移は、「変わらない」が多い一方、「下がっている」自治会も一定数いた。

問14. 加入しない理由

自治会に加入しない理由は何だと思えますか。
主な理由を3つ選んでください。(複数選択)

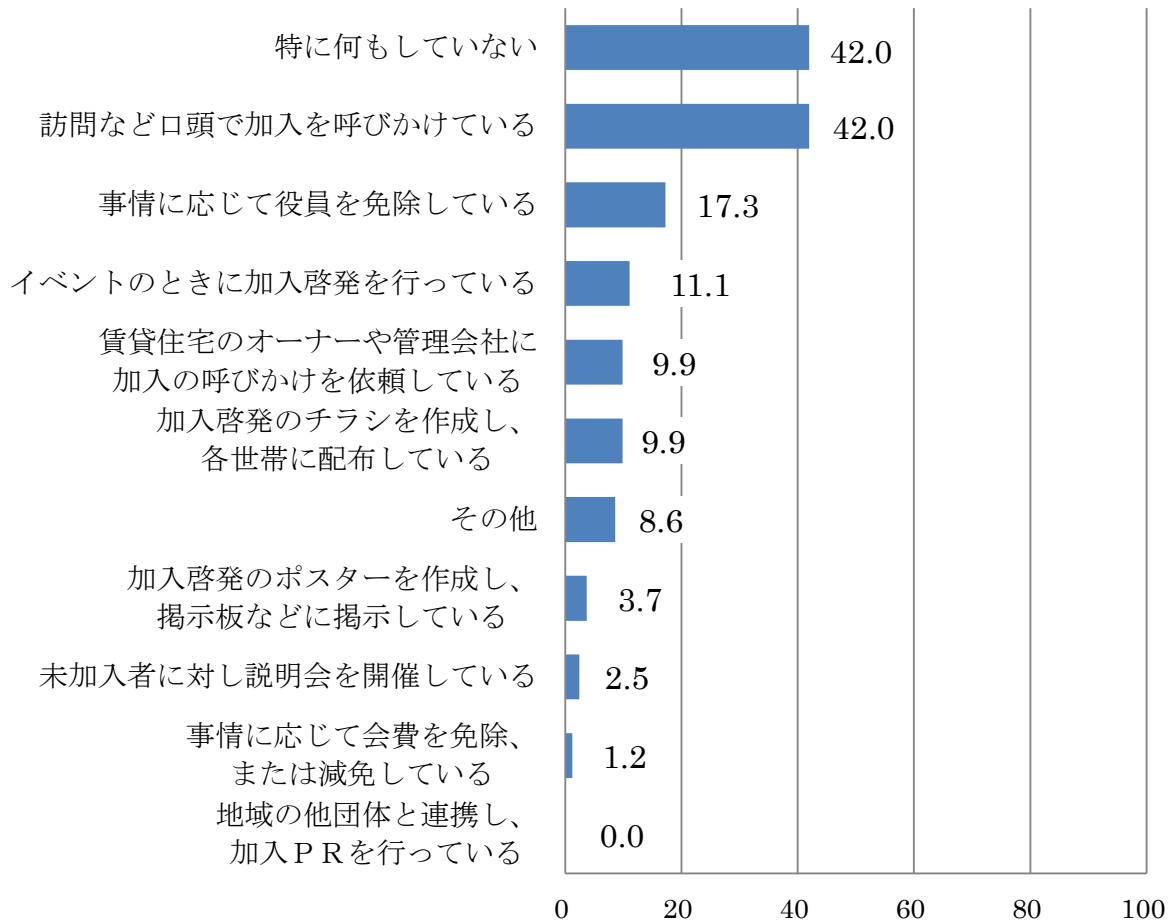


その他の回答内容

- ・全員加入している(3件)
- ・転居、高齢による施設入居、入院、子供宅に同居、死去など

- ・自治会に加入しない理由として思うことは、「加入しなくても困らない」、「役員になりたくない」、「自治会活動に関心がない」の順で多かった。

問15. 加入者を増やす取り組み
自治会未加入者（新たに引っ越してきた方を含む）への加入の勧誘
として、どのような取り組みを行っていますか。（複数選択）



その他の回答内容

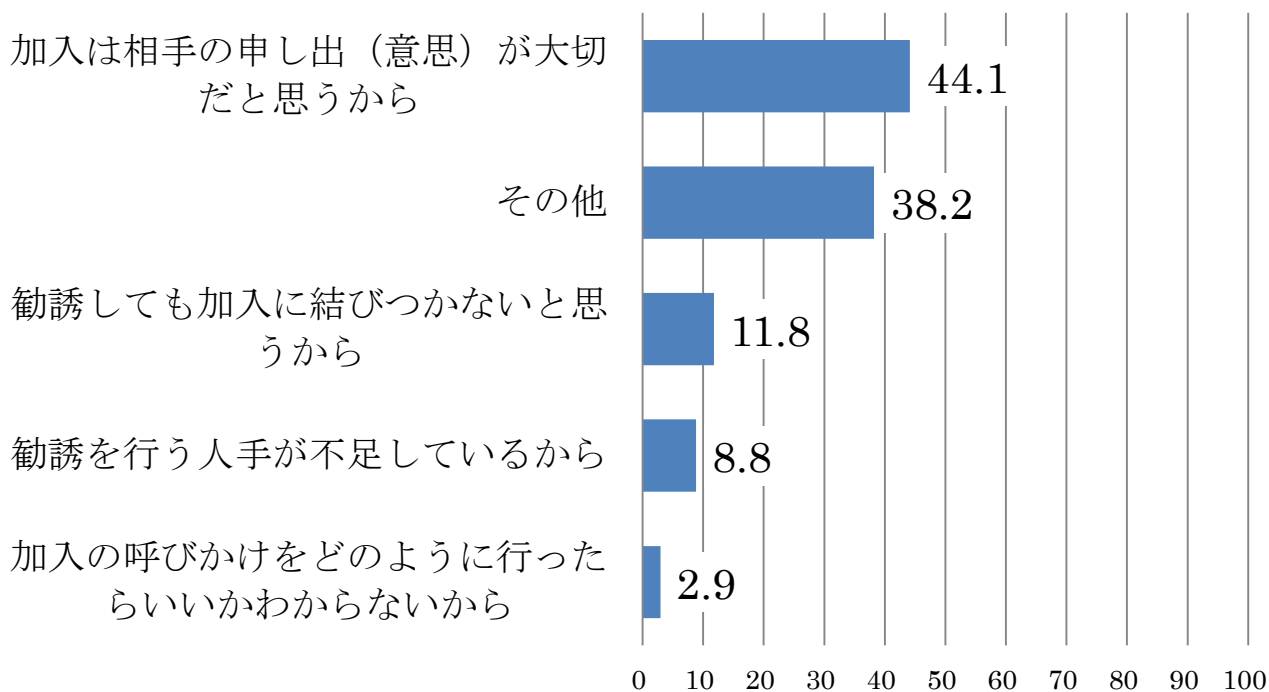
- ・全戸加入しているため問題はない（3件）
- ・退会するとき理由を聞いている
- ・転入された方、特に外国から来られた方とわかった際は、困りごとがないか声掛けから始める。
- ・高齢の方（80歳以上の方）は申し出があれば、役員免除
- ・転入者には町会加入のご案内と防災会加入のご案内を配布
- ・サークル育成し会員の自主参加を促す自治会づくり

・自治会加入者を増やす取り組みは「特に何もしていない」が多い一方、取り組みとして「訪問など口頭で加入を呼び掛けている」、「事情に応じて役員を免除している」、「イベントのときに加入啓発を行っている」の順が多かった。

自治会加入者を増やすために、効果があった取り組み

- ・引き継ぎ前から長年未加入の方には特になし。転入者とわかった場合（外国人世帯含む）は、会長になる前から声をかけ、自治会を紹介し、加入いただいた。市からも転入、転出情報があれば、お知らせいただけると新しい方にも快く受け入れ、困らないよう支援できると思う。
- ・夏祭り会場や秋のレクリエーション会場時、新たに住宅を建てた家庭に招待状を届け、会場に特別席を設け一緒に楽しみ加入を呼びかけている。
- ・法人に対し、「防犯」「防災」の本来的な必要を啓発し、我々自治会員の負担を理解して貰うことにより、協賛や入会を勧めている。新しく転居されてきた方達にも、「班長」を通じ勧誘している。・加入率の説明、会報等による説明
- ・各班長が入居があったときに、自治会、ゴミステーションのルールについて直接会って、説明をしています。入居月からの自治会費を月割（250円×月）でいただいています。
- ・サークルを育成、イベントを増やし企画、運営を会員に任せることで会員の自治意識を高めている。参加者が進んで入会する例が現れている。
- ・高齢者の役員免除だが、数が少ないので現在はよいが、増加した場合自治会活動はできなくなる。・主は避難行動支援体制整備を検討中（災害対策目的）。
- ・公社の強制力があるので、一応自治会には全員加入します。ただし、会費は文句をつけて支払いをストップ中のものも数名いる。
- ・効果はわからないが新たに引っ越してきた人にはすぐに加入を呼びかける

問15-1. 取組みを行っていない理由
 問15で「特に何もしていない」を選んだ理由は何ですか。
 (複数選択)

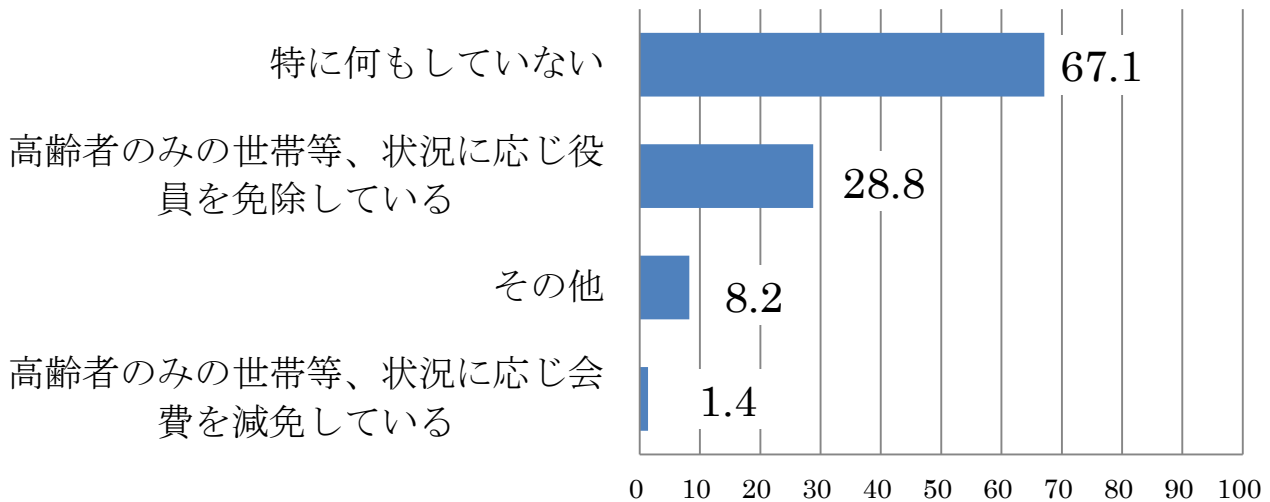


その他の回答内容

- ・自治会に強制加入しているから (3件) ・加入する世帯がない (2件)
- ・新しい家が増えないので ・人口が増えない ・長年加入していない人だから
- ・団地に入居したら会員になることが自治会則で決まっている。
- ・加入率が90%台で変化していない ・後継ぎが家を出ている (農家の場合)
- ・原則として、町内会加入は入居時の義務 ・出来たばかりの自治会のためよくわからない

・自治会加入者を増やすための取組みを行っていない理由は「加入は相手の申し出(意思)が大切だと思うから」や「その他」の理由が多数を占めていた。

問16. 退会者を減らすための取り組み
自治会から退会者を減らすために、どのような取り組み
を行っていますか。（複数選択）



その他の回答内容

- ・団地を退去するときは会員の資格を失う。・自治会費の分納
- ・くじで高齢者ができそうもない役割にあたった時は役割を変える
- ・現会長（自分）は引継ぎの役員をできるだけサポートしたいと考えている。

・自治会退会者を減らすための取り組みは、「特に何もしていない」が多い一方、取り組みとして「高齢者のみの世帯等、状況に応じ役員を免除している」が多かった。

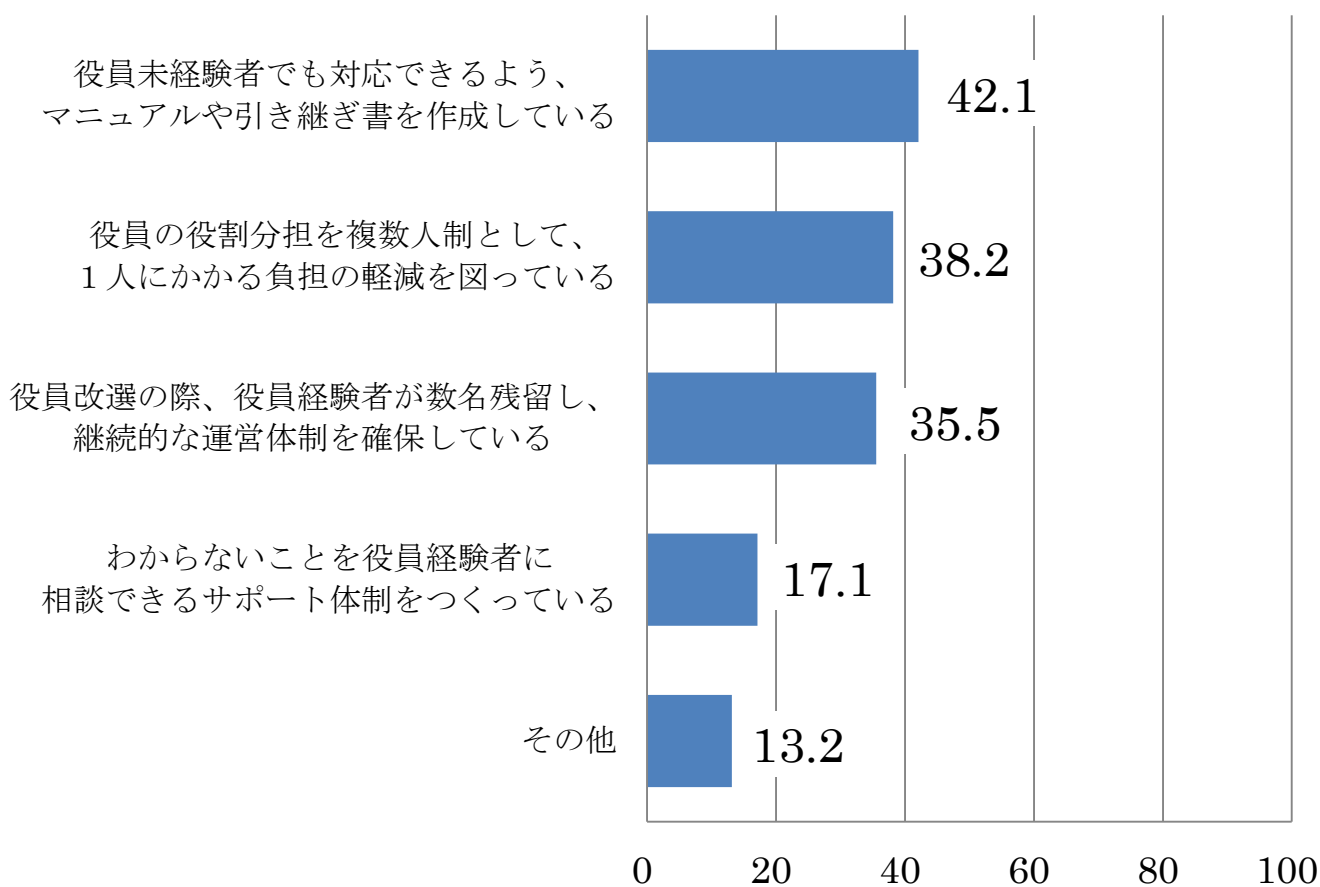
自治会退会者を減らすために、効果があった取り組み

- ・同じ地域に縁があり、住むようになったお互いですから自治会”加入・退会”の視点でのお付き合いはしていない。未加入の方々にも声掛けしているし、事情を把握したお付き合いをしている。このような付き合いで転入者が会員になってきている。相手第一！
- ・今回10/1のレクリエーション大会で招待者（約40世帯発送）で10/4現在で5件の申し込みあり、毎月役員会46名には夫婦での出席を含め50人出席しています。各会員に自宅のある環境をよくするための手段の自治会活動を活発に行う意識が高いため役員のなり手がなくありません。
- ・現状、「自治会管理の防犯灯」・「消防分担金」・「ゴミステーション」等の必要性や其の管理方法を丁寧に説明し理解していただいた。自治会の「メリット」と「デメリット」を正しく打ち明け協力を仰ぐ努力をした。
- ・現在は、退会する理由が、転勤、転居など理由がはっきりしています。9月末での世帯数は、341世帯。10月に2～3世帯増える予定です。

- ・自治会規約に事情により役員を免除する項目を入れた。会員数を数値だけで見ていない。会員数は自治会活動が居住者にどれほど受け入れられているかのバロメーター。自治会が多様な活動、会員の自主的な活動を尊重する取組を目指すことが退会しない自治会になるのでは。
- ・会員のモラルの向上が不可欠でしょう。役員会で自治会の必要性を訴えている。呼びかけにより、下部の反応も多少はよくなります。

調査項目6 役員のなり手の確保

問17. 役員のなり手を確保するための取り組み
役員のなり手を増やすために、どのような取り組みを行っていますか。(複数選択)



その他の回答内容

- ・会長後、顧問になっています。
- ・役員が固定化している
- ・現在検討中
- ・輪番制で決められている。
- ・協力してやっていくしかない
- ・順番に回ってくる説明を最初にしてあります。

- ・ 役員のなり手を確保するための取り組みは「役員未経験者でも対応できるよう、マニュアルや引き継ぎ書を作成している」や「役員の役割分担を複数人数制として、一人に係る負担の軽減を図っている」、「役員改選の際、役員経験者が数名残留し、継続的な運営体制を確保している」の順で多かった。

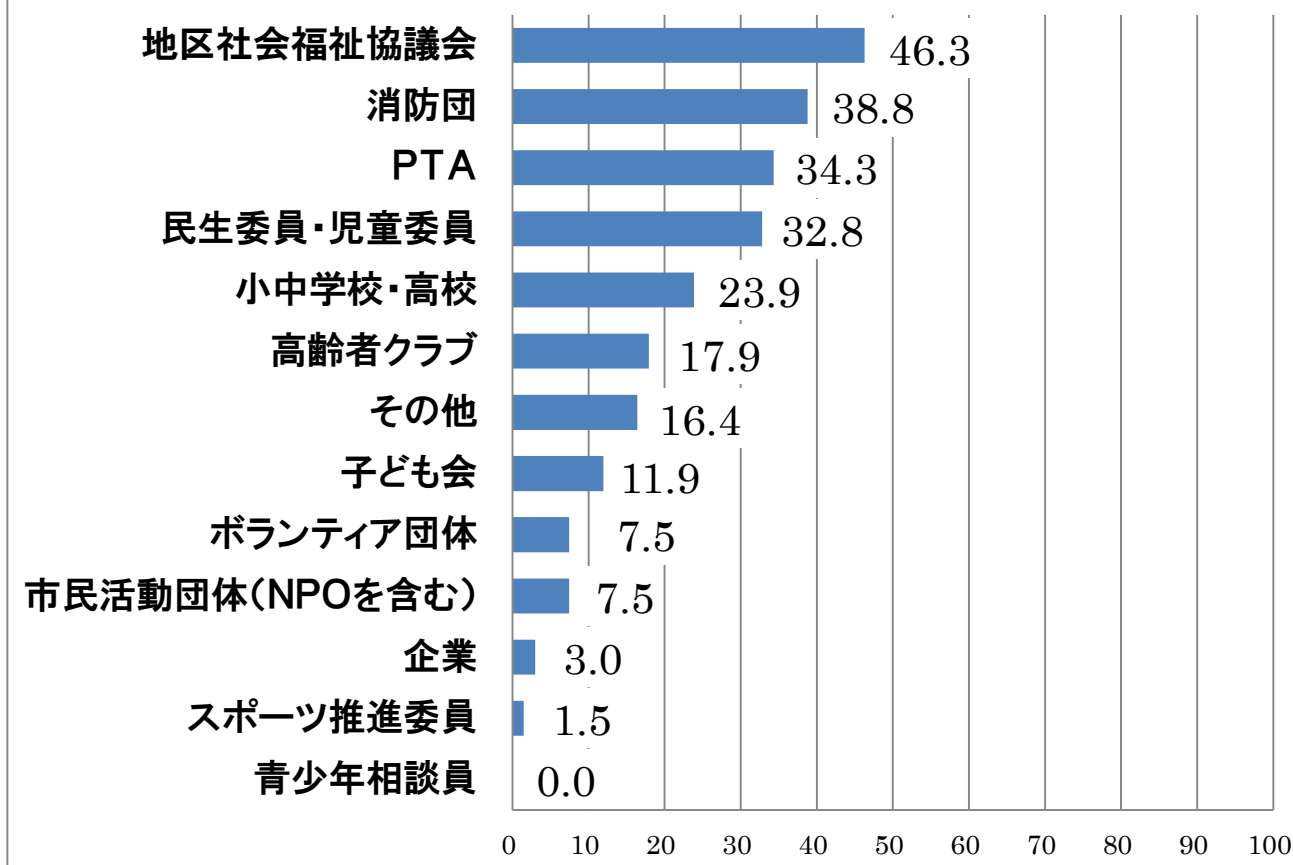
役員のなり手を増やすために、活動への負担軽減策など、効果があった取り組み

- ・ 班長－高齢者世帯は区費の徴収と回覧物だけで行事参加は考慮、役員－仕事をしている方には平日の役員会議の出席を考慮。ただし、行事の参加は促す。
- ・ 副会長を二名体制にし、各役員や班長のサポートを強めた。
- ・ 特に役員には数年役員経験者がサポートと役員でも特に負担が少ない部署につけている。行事に関しては数人での仕事を増やし、仕事がある人でも負担感の無い方策をしている。80歳以上で事務局が認めた人は役を免除することができる。
- ・ 各事業毎にマニュアル化を実施
- ・ 各班から、1世帯が班長となり、班長12名で役員を兼任して、一年間活動しています。来年は自分だ、と心構えもできますし、担当役員決めがくじ引きになっていますが、皆さん受け入れてくださっています。しかし、会長、副会長の仕事が多すぎます。話し合いが多すぎませんか？
- ・ 考え方として高齢化した自治会は、以前と同じ企画・実施方法を見直し、高齢者ができる活動に切り換えること。役員が走り回る活動スタイルから会員が分担する自治会へ。まだ効果のほどはわからない。
- ・ イベント参加者などに声掛けを行い、個別対応を実施して効果をあげている
- ・ 気軽に行ってもらえるように予定等を常にメール等でやり取りを行っている。
- ・ なるべく、仕事のない人に頼むようにする。現役はパートなどで働いているから無理な場合がある。
- ・ 当自治会は入居順に輪番制で、役は回ってきますので引き受けざるを得ません。マニュアルまでは有りませんが、前年度の役員が、本年の活動の事業案を作りますのでそれにそって本年の役員が活動をいたします。数年前の活動記録がありますので、参考にしております。
- ・ 強制参加ではなく、できる部分からの参加をよびかけている

調査項目7 他団体・組織との協力・連携

他団体・組織との協力・連携

自治会活動において地域の他団体・組織と協力・連携
することがありますか。(複数選択)



その他の回答内容

- ・引き継ぎ時に特に説明なく現実に連携活動無し。ただし小学校からの運動会、地区社協からのいきいきサロンへの案内が来る程度。しかし積極的な相互連携が必要と考えている。
- ・同じ小学校区内の自治会との連携 ・交通安全指導員、防犯指導員、八幡神社
- ・学区内の他自治会のイベントへ積極的協力している。 ・自治連合会小学校区支部
- ・周辺他自治会 ・小学校区支部 他自治会 ・夏祭り子供みこし
- ・地域の祭り、役割分担 ・地域のスポーツクラブ

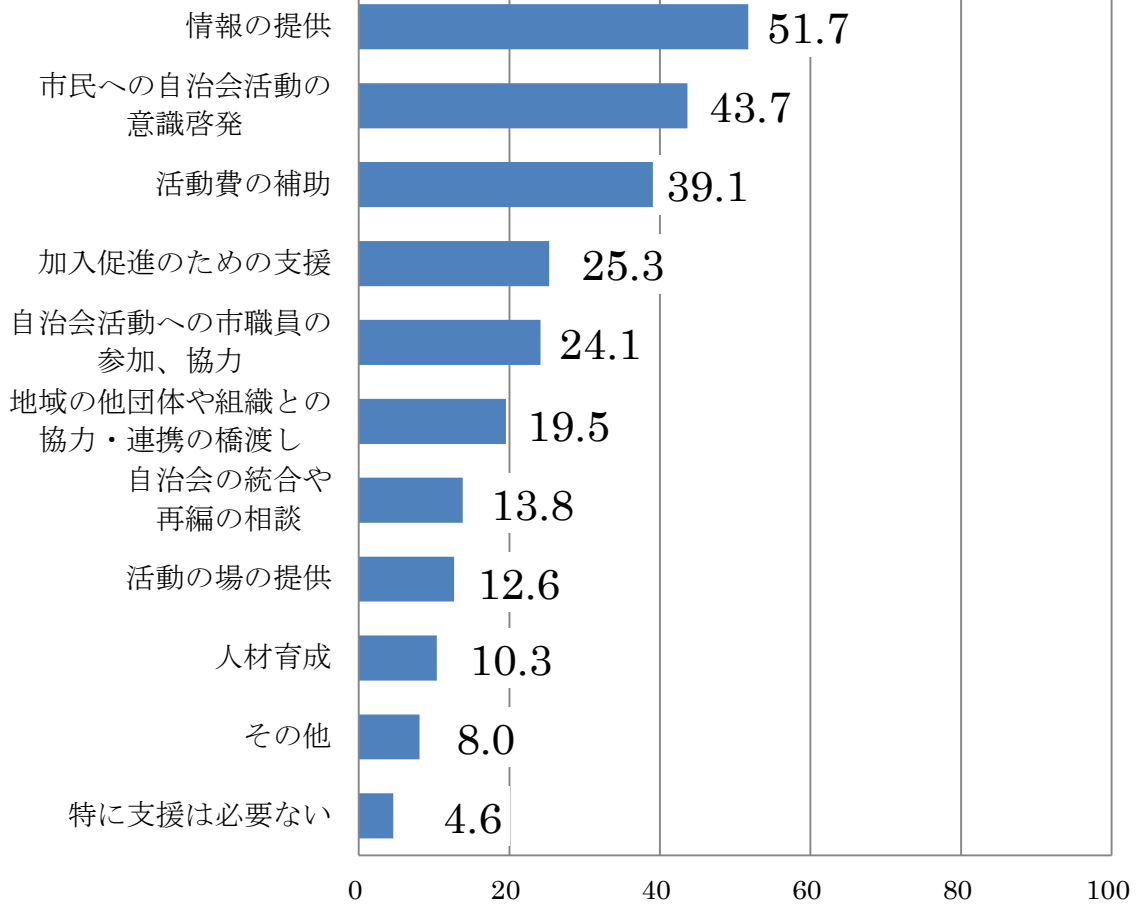
・他団体との組織・連携は、「地区社会福祉協議会」、「消防団」、「PTA」、「民生委員・児童委員」、「小中学校・高校」の順で多かった。

他団体・組織との協力・連携により効果があった特徴的な取り組み

- ・自治会として相手団体と連携し取り組んだ活動や引き継ぎ事項は少なく、実際行っていない。唯一、自治連第一小学校区支部と連携（実際は輪番で支部長）各自治会と共通テーマで取り組んでいるのは将来につながる契機。（地域統合型スポーツクラブ SSV との新たな取り組みが次の第一歩か）
- ・梨農家による集会所の枝下しへの協力をいただきました。
- ・他自治会との合同夏祭り
- ・盆踊りの出店をボランティア団体に変更。低価格の販売につなげる。
- ・当自治会管理地の共有化や無償貸し出しにより、互いの「協力心」や「融和」「仲間意識」が生まれてきた。
- ・防災会活動を中学生に参加を呼び掛けて一緒に行う。祭り、もちつき等も同様に。
- ・夏祭りで出店等の協力 ・資源物回収活動を自治会員の有志（ボランティア）に手伝ってもらっている。
- ・市高齢者福祉課による楽トレ体操が自治会サークルづくりにつながった。「やおばあく」移動販売との連携。自治会報にて紹介。年末「のしもち」共同購入。買い物困難高齢者に好評。
- ・他自治会と合同で夏祭り等のイベントを開催 ・自治連合会支部会への加入を検討中
- ・駐車違反や不正行為を、交番や公社に連絡する。証拠になる写真（デジカメ）を提出して、解決した例が2～3あります。
- ・小中学校の回覧物を会員の方に回しております。白井高校にはゴミゼロ運動部に学校の周辺のゴミゼロに協力をお願いして参加をしてもらいました。
- ・「夏祭り」では行事担当役員が企業の寄付に奔走した。
- ・防災リアル訓練への参加

調査項目8 市からの必要な支援

問19. 市からの必要な支援
自治会の課題解決や活性化に向けて、市からどのような支援が必要だと考えますか。（複数選択）



特に支援は必要としないとした理由

- ・自治会活動が固定化しているの。 ・現状に満足している。
- ・これ以上世帯が増えない ・今の回覧物などの情報提供で十分
- ・出来たばかりの自治会のため、どのようにしたら良いのか情報が欲しい

その他の回答内容

- ・各単一自治会個別の活動だけではなくよりよい活動する上でも、自治連及び各支部活動の活性化、連携は必須。実ある活動となるよう市民活動支援課のご協力が必要と思う。現状のままでは自治連は負担のみ。 ・防犯灯や本当に必要な環境整備
- ・自治会からの要望、提案を課題解決のために迅速に対応していただきたい。
- ・自治連合会運営事務のアウトソーシング（連合会全体で）

- ・市からの必要な支援は「情報の提供」、「市民への自治会活動の意識啓発」、「活動費の補助」、「加入促進のための支援」、「自治会活動への市職員の参加、協力」の順で多かった。

問20. その他の意見、提案

自治会活動を行う上で日頃感じていること、自治会活動の活性化のための提案など、ご自由にお書きください。（自由回答）

- ・自治会長及び自治連支部、自治連役員と1年目に同時に担当になって想うこと。①会長の依頼を受けた時の説明と。受諾後の実態に違いを感じた。白井市において、”自治会とは何か。” ”自治連”とは何か、事前に就任時、きちっと説明し、かつ、お困りの際の受け皿になるところがあるとよいのでは。すべて試行錯誤。やりたくないと思う人が多いのでは。自治連総会で説明してはどうか。（別途提案したい。）
- ・役員任期が1年と短いこともあり、新しい取り組みを考える時間がない。
- ・日ごろの自治会員相互の挨拶がたいせつなことと、お互いに干渉しないことが円滑な自治会活動を続けていく秘訣だと思います。
- ・高齢者が多いため、活動はカラオケ、鑑賞会などの楽しみ会を多くしている。
- ・小さい地区のため大きな活動をするのがむずかしいことから隣接自治会との連携が必要である。
- ・以前、町民運動会では、地区対抗リレー、仮装と、自治会が一丸となって取り組む行事がありましたが、いまこそ団結できることを。
- ・年齢を問わず、あらゆる住民が参加する理由、またそうしたくなる活動を。決して押し付けでは無く、あくまでも、自然に参加できる伝統的な催事や行事を作り上げ、其れを育てて行く事、自分が生まれ育った町にその時だけでも懐かしみ自分たちの子供に見せたいような行事が生まれてほしい。
- ・自治会活動は「大変だ」という考えを払しょくする。
- ・PR活動の強化。回覧板以外の連絡方法、行事の周知徹底の改善。
- ・自治会内のお友達感覚を広げていける活動の推進。
- ・会長、事務局の輪番制の確立
- ・自治会の高齢化が進んでいる。自分も初めて自治会の役員となったが、なったことで自治会の仕組みや地域とのつながりが理解・体験できた。若い世代の参加が重要になってくる。
- ・意見交換会は良い取り組みだと思うが、ゴールが共有できていないのではないかな？開催して次回のつながりが見えにくい。
- ・役員になり手がいない、特に高齢を理由に断る人が多い。
- ・行事を企画しようとしても余計なことはやらなくていいと行事がゼロになってしまった。
- ・地域の高齢化が進んできていること
- ・行政や地域団体からは自治会に一方的に協力を求めてくるが多く、対等な連携協力関係ではない。自治会としてこれら団体に申し入れるような問題がないとも考えられるが、自治会の意識を考え直す必要があるのでは。例えば災害対策は地域ぐるみで考え、実施する必要があるのに、地域防災組織ができていない
- ・自治会以外の活動の負担が大きい。特に小学校区支部会等、役員になり手がなくなり

次頁に続く

前頁から続く

ます！

- やはり自治会を発足させる際、集会所及び備品補完できるところが必要、自治会を作れとなっても話し合う場所が遠い等や予約が取れない等あり、本当に自治会が必要か？と問われることがあります。
- 役員も含めて、自治会の業務に担って、役人になることが「いやだ」という人が多い、班長程度（自治会費集金、回覧／配付）ぐらいしたらいいが。今後事業の縮小に努めていかないと、役員の担い手が減り、また自治会からの脱退者が増えていく。
- 「自治会活動の活性化」＝「役員のみ負担増」という構図なので、役員負担なしに活性化を成功させている事例等あれば紹介いただきたい。
- 世帯数が少なく補助金が少ないため、お祭り等の店をひらくにしても消極的になってしまう。小学校区支部との二重補助を認めてほしい。
- 高齢者世帯や共働き世帯が増加している現代社会に適した効率的な運営制度構築が必要。（回覧制度等）
- 避難行動要支援者を把握したいが、個人情報収集・保管管理の問題あり、また社会福祉協議会や民生委員との役割分担が不明。
- 市へのお願いとして、現在生活環境指導員に支払いされている補助金を個人ではなく、自治会への支払いとしてもらいたい。
- 現状を考えると、OBの方々の知恵を借りる、高齢者化と少子化に対する対策、これから増加する認知症かつ一人住民の方々のボランティア対策が必要と思う。
- 会長が市役所の担当部課にクレームや困ったことを陳情して解決に努力することは効果的と思う。
- 自治会の運営委員は、6名で輪番制になっており、この中から三役（会長、事務局長、副会長2名）を選出しているが、なかなか手がいなく、毎年苦慮している。
- 委員の高齢化が進み、夏祭り等のイベント開催が難しくなってきた。この対策として、3年前から活動を積極的に行っている「お助けマン」を募り何とかイベントを継続している。
- 新しくできた自治会は情報がなく何をしたいのかわからない。ある程度長く活動している自治会の協力が必要と考える。
- 自治会長になってもそうでなくとも携帯電話やパソコンが使えないと役員の活動は難しくなっている。よき理解者がついて皆さんで支えないとやっていけないという問題がある。事実文書などはほとんど携帯電話やパソコンになっているからである。
- 各種説明会や会合の実施日について、平日の実施や、事前案内の早期配付土、日曜日に休みが取れない職業の人や休みがシフト制の場合1か月以上前に休日が決まってしまう人が会長以下役員になることがあるため。
- 公共施設での飲酒解禁
- 市内各地に各自治会のウィキペディアの情報がみられる掲示物を配置し、住んでいる地域の情報を住民が共有できるようにしたらどうか。
- 市の施策や計画などをWeb上で一つのページにまとめ未来の白井市についてみんなで

次頁に続く

前頁から続く

話せるように情報公開をするべきではないか。

- 自治会の仕事は、市からの情報連絡伝達ごみ集積所の清潔化、会員住民の把握など一般的に自治会活動として報じられているものは必要なことではあるが自治体の仕事の下請けのようなもので、自治会組織がやりがいを感じて活動していけるほどの魅力がない。
- 高齢化や子育てに関して、現在必要とされている、助け合い、見守りなどや、まちを活気づけるための祭りや各種催し物など、町会イベント実施は会員の高齢化もあり、作業の大変さで消滅しつつある。
- 近隣所帯無関心派住民に対しては、相互の助け合い、見守りなどや町内挙げてのイベント実施等の、協力の結果や、相互支援などによる達成感や感動の場を味わうことの重要性を、自治体からの広報メディアやいろんな機会を通じて住民を啓発し続けて、これらが風土や習慣になるまで継続していただきたい。近隣所帯無関心派でない潜在的会員たちは、それに勇気づけられて互助や町内活性化イベントの開催を積極的に実施、参加していく風潮になっていくと考える。このような風土づくりを、短い自治会役員の任務期間と一自治会での活動ではたかが知れたもので、自治体が旗振り役を担ってもらい、周辺を含めて永続的な環境を作っていただければ、自治会、自治会員の意識と行動を勇気づけ、促進できていくものと考えます。
- コミュニティ活動を活性化する大元の原動力として頑張っている自治会に対し助成や支援を行ってほしい。
- 会員の高齢化の問題と会員数の減少で独自で自治会の運営が難しいところは合併を含めて、自治会活動の再編等を役所で提案してもよい時期に来ているのではないかと思います。100戸以下の自治会は特に運営が苦しいのではないかと？大きい自治会と同じ分担金を払って行事に参加することが負担になっていると思います。
- 住民全体の高齢化は各自治体共通の問題と考えられるので、特に市の支援（アイディアの提供等）を期待している。
- 田舎の地域では、長老の意見が幅を利かせる。
 - 頑固な方、声の大きい人、会議をつぶすような人、やる気をそがれます。前向きな人が集まってもマイナスエネルギーに負けて自治会に入りたくないという人も出てきます。やっぱり人間関係が基本なのでできていない人と会議をするのが難しいです。
- 活動を期待する前に、参加していただくことに注力する。娯楽等のイベントなどを行う（小規模でよい）